



■子どもの行動の例

食事の準備をしていると「お手伝いしたい」「ママと一緒に良い～」と言って台所にやってくる。



例) お手伝いの場面

■うちの子のできているところを探しましょう！

	できる	時々できる	できない
お手伝いをしたいと言う	●		
食器の準備ができる		●	
野菜を洗う		●	
手作業ができる(ちぎる、まぜる、割る、むくなど)		●	
配膳をする		●	
食後に自分の食器をシンクへ持っていく		●	



子育てヒント

経験して覚えていく

子どもが「手伝いたい」という時は、手伝うことに興味があり、学びたいという気持ちの準備が整っていることが期待できます。また、子どもが親と一緒にいたいと求めている場合があります。子どもが求めている時に親が向き合うと良い関係ができやすくなるでしょう。

子どもが手伝うと時間がかかるのは当然です。負担であれば、手伝いを全部させるのではなく、1つずつ楽しく取り組む機会を考えてみましょう。

親が自分でした方が早いとの理由から、スマホやタブレットを与えると子どもが静かに待つことができるので、一時的に親は助かるかもしれませんが。そのような対応が繰り返されていくと、子どもがスマホやタブレットを見る時間が増えやすく、健康被害が出てくる場合があります。もし、子どもにスマホやタブレットを使用させる時には、事前に見せる内容や時間について吟味しましょう。



子どもが興味をもった時に、親子で楽しく取り組むことで 子どもの持つ力を上手に伸ばすことが期待できるでしょう

例題の「お手伝いをしたい」で考えてみましょう。

■前向き子育てのコツ 具体的にほめる

	時々できる
食器の準備ができる	●
野菜を洗う	●
手作業ができる（ちぎる、まぜる、割る、むくなど）	●
配膳をする	●
食後に自分の食器をシンクへ持っていく	●

子どものできそうな行動に何があるかを考えて準備します。 →
できたら子どもに近づいて具体的にその行動をほめると良いでしょう
(子どもの行動をほめる時も教える時も、子どもの目の高さに合わせると伝わりやすくなります)。

具体的にお子さんの場合を考えて書いてみましょう。

■ _____ くん(ちゃん) _____ ができたね。



■前向き子育てのコツ 子どもの気持ちが向いた時に教える

子どもが何かを教えてほしい、何かを一緒にしたい時に近づいてきた時は、新しいことを教える絶好のチャンスです。ただ答えを教えるだけでなく、子どもにいろいろ尋ねると、もっと学ぶようになり、そして子どもが自分で答えを見つけるように促すことで、もっと会話はずみずみ。子どもが問題を解決する手助けになるヒントを出してみましょう。

例1) プチトマトをみて「ななちゃん、それは何色かな？赤だね。赤い食べ物は他にどんなのがあるかな？」

例2) 「ななちゃん、赤い食べ物をよく知っていたね。プチトマトのへたを取ってくれたので、助かったわあ。」



今月の定期便についての感想や質問を
お聞かせください。

■お問い合わせ 子ども未来課 子育て支援係 ☎ 28-7568
(前向き子育て 担当 石橋)

科学研究費助成事業(責任者 福岡県立大学 江上千代美)

無断複写・複製を禁ず